

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：17104

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26770170

研究課題名(和文) 削除構文における移動操作に関する通言語的統語研究

研究課題名(英文) A Cross-linguistic Syntactic Analysis on Movement in Ellipsis Constructions

研究代表者

前田 雅子 (Maeda, Masako)

九州工業大学・教養教育院・准教授

研究者番号：00708571

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、削除部分と話題化要素の統語・意味・音韻的類似点に基づき、削除される要素はまず話題化移動することにより派生されると分析した(cf. Johnson 2001)。このような削除の話題化移動分析により、削除部からの抜き取り制限を移動要素からの抜き取り制限と同様に分析することが可能になる。特に、削除と移動の介在効果を移動要素間に見られる相対的最小性の原理に還元することを試みた。本分析により、英語のshort answer、sluicing、スペイン語のsplit questionsなどの削除構文における要素の抜き取り制限を統一的に説明した。

研究成果の概要(英文)：Based on the parallel behaviors of the deletion site and a topic phrase, I adopt Johnson's (2001) topicalization approach to deletion, in which a deletion site undergoes topicalization to the left periphery before it gets deleted. This approach, in conjunction with the relativized minimality effect, allows for a unified analysis of a variety of (im)possible extractions from the deletion site in terms of the relativized minimality effects on A'-movements. This research gives a unified account for extraction phenomena including short answers, sluicing, and split questions.

研究分野：統語論

キーワード：カートグラフィー 削除 話題化移動 移動の介在効果

1. 研究開始当初の背景

「言語は意味と音を最適の方法でつなぐ道具である」という生成文法の仮定のもとでは、音と意味が対応していないかのように見える移動現象と削除現象は重要な研究対象である。移動と削除は一見すると全く異なる現象であるため、単独で研究されることが多く(Lobeck (1995), Rizzi (1990)), 移動と削除の相互作用を包括的に扱う研究は数少ない。ただし、Aelbrecht and Haegeman (2012)やJohnson (2001)は、移動と削除の認可条件の類似点を根拠に、削除される要素はまず移動しなければならぬと主張し、削除操作を移動操作に還元することを試みている。しかし、これらの研究は英語のみを研究対象としているため、英語構文の分析に特化しており、多様な通言語的事実の検証や分析ができていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、移動操作と削除操作の相互作用に関する通言語的実証研究を通じ、その記述的一般化を試みるとともに、同現象を包括的に説明する統語原理を解明することである。

特に、移動と削除に関する通言語的研究を行い、削除の移動分析がそれらの現象を適切に分析できるかを検証する。さらに、削除を移動操作に還元することにより、削除と移動の間に見られる介在効果を移動操作間の介在効果により分析することが可能となる。申請者は、単一文において異なる2つの移動が存在する場合、それらの移動は介在効果を引き起こす場合があることをイタリア語、英語、日本語において観察し、それを移動全般にかかる相対的最小性の原理から導く提案を行っている。このような移動操作間の相対的最小性を、移動操作と削除操作の介在効果にも適用し、両者をより普遍的、統一的に統語分

析することを目標とする。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、(i)単一文において移動と削除が共起する事実の収集・精査、(ii)移動操作と削除操作の基本特性の解明、(iii)移動現象と削除現象を統一的に分析する統語分析と音韻条件の提案、(iv) (ii)、(iii)の通言語的実証研究の4つのステージを経ることにより本研究を行う。本研究は2年にわたり行う予定であり、まず、移動と削除の相互作用に関する通言語的事実の収集と観察を主として行い、そこで得られた言語事象をもとに移動と削除の統語原理や、統語構造と音韻構造のインターフェイス条件を探求する。また、通言語的実証研究を通して、本分析が持つ理論的・経験的帰結を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 削除文において移動操作にかかる制限について統語分析を行った。特に、動詞句削除と動詞句話題化移動の類似性から、削除は話題化移動の結果起こると仮定し (Johnson (2001)), 削除文における移動の可否を、削除のために話題化移動した要素からの抜き取り移動の可否に還元することを提案した。この提案により、動詞句削除などの削除構文において、wh移動や関係代名詞の移動が不可能であることを、話題化移動した句からのwh抜き取りが不可能であることに還元した分析を行った。さらに、間接疑問縮約、空所化、動詞句削除などの構文において、削除部からの焦点化移動や対比主題の移動が可能であることも、話題化移動した要素からの焦点要素、対照主題の抜き取りが可能であることに還元する統語分析を行った。

(2) as-引用節やso-倒置文、比較倒置文においては動詞句削除が義務的に生じるが、これ

らの構文は島の制限にかかる、wh移動や否定が不可能、主語が義務的に焦点化されるなどの興味深い特徴を持つ。これらの特徴に関して、動詞句削除の話題化移動分析を仮定し、動詞句削除部からの主語の焦点化移動、null Operatorの移動の可否を移動要素間の介在効果に還元する統語分析を提案した。(1)と(2)の研究成果を、日本英語学会、日本英文学会等の全国学会や招聘発表で口頭発表するとともに、論文Ellipsis as Topicalization in Derivational Cartographic Structures" (*English Linguistics* 34 (2))として投稿し、掲載された。

(3) 国立シンガポール大学の佐藤陽介准教授と日本語の助詞残留型削除 (Particle Stranding Ellipsis: PSE)の統語的特性を明らかにした。特に、残留される助詞は話題化標識「は」に限られないこと、従属節に生じることができることなどから、Sato (2012)の話題化移動+主節左周縁部の転送領域分析は妥当ではなく、PSEは音韻部門での削除操作により派生されると主張した。その成果をThe 19th Seoul International Conference on Generative Grammar、The 25th Japanese/Korean Linguistics Conferenceなどで口頭発表した。

(4)日本語の非削除文において、ある種の焦点要素が常に否定辞や助動詞よりも広い作用域をとること、さらに、そのような焦点要素が項削除の適用を受けると狭い作用域も取り得ることを様々な構文で示した。さらに、削除文における作用域は、先行詞との作用域の並行性に従うことも明らかにした。これらの事実を、派生的PF削除分析 (Takahashi 2017)と削除にかかるScope Economy, Parallelismの制約(Fox 2000)により統語分析した。その成果を、国立シンガポール大学での招聘講演や、日本英文学会九州支部第70回大会で口頭発表した。

(5)日本語の名詞句削除に関して高橋大厚教

授と共同研究した。特に、長崎方言における名詞句削除の現象を、日本語の標準語、英語と比較研究し、長崎方言、大分方言に関する新しい名詞句削除の事実を提示した。その上で、長崎方言、大分方言の名詞句削除に見られる代名詞のような要素(例:「まりこんと」「まりこんの」)がオランダ語の名詞句削除においても観察されることを明らかにし、オランダ語、英語、日本語の標準語、長崎方言を統一的に統語分析した。それらの研究成果を、*Japanese/Korean Linguistics* 23や *Nanzan Linguistics* 12に投稿した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

[1] Maeda, Masako (2018) "Ellipsis as Topicalization in Derivational Cartographic Structures," *English Linguistics* 34 (2), 331-347. (査読あり)

[2] Maeda, Masako (2017) [Review] "Beyond Functional Sequence: The Cartography of Syntactic Structures, Volume 10" ed. by Ur Shlonsky, Oxford University Press, Oxford, 2015, x+357pp. *English Linguistics* 34 (1), 117-128. (査読あり)

[3] Sato, Yosuke and Masako Maeda (2017) "Particle Stranding Ellipsis Involves PF-Ellipsis," *Proceedings of the 19th Seoul International Conference on Generative Grammar*, 171-190. (査読なし)

[4] Maeda, Masako and Daiko Takahashi (2017) "Further Notes on NP-Ellipsis in Some Dialects of Japanese" *Nanzan Linguistics* 12, 29-45.

(査読なし)

[5] Maeda, Masako (2017) "VP-Ellipsis in As-parentheticals, So-inversion and Comparative Inversion" *JELS* 34, 84-90. (査読なし)

[6] Maeda, Masako and Daiko Takahashi (2016) "NP-Ellipsis in the Nagasaki Dialect of Japanese" *Japanese/Korean Linguistics* 23, ed. by Michael Kenstowicz, Theodore Levin and Ryo Masuda, 119-131, CSLI Publications. (査読なし)

[7] Maeda, Masako and Taichi Nakamura (2015) "VP-Deletion, Parallelism, and the Role of Aux: A Phase-Theoretic Approach" *JELS* 32, 297-303. (査読なし)

〔学会発表〕(計 14 件)

[1] Maeda, Masako and Yosuke Sato (2018) "Japanese Obligatory Control as Switch Reference: Toward Eliminating PRO from Linguistic Theory," Poster presented at the Workshop "Current Issues in Comparative Syntax: Past, Present, and Future", National University of Singapore, Singapore. March 1-2. (査読あり)

[2] Sato, Yosuke and Masako Maeda (2018) "Interactions of Phasal Spell-Out and Prosodic Phrasing: Evidence from Focus Intonation and Inverse Scope in Japanese," Paper presented at the 6th Workshop on "Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables" Ekinan-Campus TOKIMATE, Niigata University, Japan. February 17. (招聘、査読なし)

[3] Maeda, Masako and Yosuke Sato (2017)

"PROblems of Backward Control in Japanese" 別府大学英語学セミナー, 別府大学, 12月9日. (招聘、査読なし)

[4] Maeda, Masako (2017) "Can Ellipsis Change Meaning?" Research Seminar, Department of English Language and Literature, National University of Singapore, November 24. (招聘、査読なし)

[5] 前田雅子 (2017) 「日本語の pro と項削除」日本英文学会九州支部第 70 回大会, 長崎大学, 10月21-22日. (査読あり)

[6] Sato, Yosuke and Masako Maeda (2017) "Particle Stranding Ellipsis in Japanese, String Deletion, and Argument Ellipsis," The 25th Japanese/Korean Linguistics Conference, University of Hawai'i, Hawai'i, USA, October 12-14. (査読あり)

[7] Sato, Yosuke and Masako Maeda (2017) "Particle Stranding Ellipsis Involves PF-Ellipsis," The 19th Seoul International Conference on Generative Grammar, Seoul National University, Seoul, Korea, August 9-11. (査読あり)

[8] 前田雅子 (2017) 「派生的カートグラフィーに基づく削除の話題化移動分析」日本英文学会第 89 回大会 シンポジウム, 静岡大学, 5月20-21日. (査読なし)

[9] Maeda, Masako (2016) "(Im)possible Extraction out of Ellipsis" Presented at Comparative Syntax and Language Acquisition 6, Nanzan University, Japan, Dec 10-11. (招聘、査読なし)

[10] 前田雅子 (2016) 「動詞句削除部からの抜き取りに関する派生的カートグラフィー

分析」日本言語学会第153回大会, 福岡大学,
12月3-4日。(査読あり)

[11] 前田雅子 (2016) 「As-引用節、So-倒置
文、比較倒置文における動詞句削除
(VP-Ellipsis in As-parentheticals, So-inversion
and Comparative Inversion)」日本英語学会第
34回大会, 金沢大学, 11月12-13日。(査読あ
り)

[12] Maeda, Masako and Hideki Maki (2014)
“Where the Nagasaki Japanese Stands” Formal
Approaches to Japanese Linguistics 7,
International Christian University, Japan, June
27-29. (Poster, 査読あり)

[13] Maeda, Masako and Taichi Nakamura
(2014) "VP-Deletion, Parallelism, and the Role
of Aux: A Phase-Theoretic Approach" ELSJ 7th
International Spring Forum, Doshisha University,
Japan, April 19-20. (査読あり)

〔図書〕(計 1 件)

[1] Maeda, Masako (2014) *Derivational
Feature-based Relativized Minimality*, Kyushu
University Press. 152 ページ.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

前田雅子 (MAEDA, Masako)

九州工業大学 教養教育院 准教授

研究者番号: 00708571

(2)研究分担者

()

なし

研究者番号:

(3)連携研究者

()

なし

研究者番号:

(4)研究協力者

()

高橋大厚教授 (TAKAHASHI, Daiko)

佐藤陽介准教授 (SATO, Yosuke)